



東京港

概 説

I. 隅田川口改良工事

東京築港に關しては明治十三年以來、夙に其の必要を高唱せられ、爾來計畫上幾多の研鑽を重ね、又東京市民、多年之が實現を翹望せしも機運熟せず、明治三十九年豫算 260萬を以て第一期隅田川改良工事を起し、漸く濁筋の浚渫及埋立地を築造し、永代橋より品川沖に至る航路を開通し、其の便宜多大なるに鑑み、明治四十四年工事の終了するや第二期改良工事として更に豫算 24,680,000圓を以て永代橋下流より、品川沖砲臺外干潮面下 12 尺の深度に達する航路を新設し一部幅員は増加を圖り、之が浚渫土砂を以て芝浦地帶の埋立地を埋築せり、而も以上の工事は大型駁船、吃水 10 尺内外の船舶の通航を立眼とせるに外ならず、爾後の船舶の來集漸く繁く、一大修築の機運を促して止まず、依つて大正十一年より向ふ五ヶ年の繼續事業として、工費 680 萬圓を以て第三期隅田川口改良工事起工中の處、偶々大震災に遭遇し一時事業中止の已むなきに至りたるもの同十三年更に工事を續行せり。一面震災直後救援物資の非常輸送に當り船舶の冒險的入津と犠牲的荷役の實況に徵し之が焦眉の急に應ぜんが爲、應急施設として工費 184 萬圓を投じ、芝浦日の出町棧橋並上屋及び臨港鐵道の建設を急ぎ大正十五年三月之が棧橋上屋の使用を開始し昭和五年臨港鐵道の開通を見、以て水陸連絡設備の一端を具現せり。更に震災後芝浦地先に出入する船舶頓に激増し之が物貨の增加を考慮するときは、港内の狹隘、船貨荷役の困難は前述の既定工事の完成を見るも到底緩和さるべきもなく茲に第三期既定計畫を、工費 190 萬圓に變更増額し、船貨の增加に備へ、他面水上交通の安全を期せんと、航路船溜の擴大、埋立地の増設、航路標識の設置、6,000噸級の船舶に對する繫船岸壁の築造、及び港内面積、260 萬坪餘を呑吐する假防波堤の築造等東京築港の端緒とも言ふべき計畫を樹て、工事進捗中の處、本年三月末を以て之が竣工を見たり。

2. 東京港修築工事

惟ふに上述の施設たるや、僅かに年額 360 萬噸の貨物の港内荷役をなし得るに止り、諸般の港灣機能を發揮せしむ可き施設は殆んど之を缺除し、港の眞價を發揮し、年々輻輳する百貨を市民に迅速且經濟的に消化せしめんには、之が擴築増設を一日も忽にする事を得ず、加ふるに復興事業の完成せる帝都に於て物貨移動の大勢に順應せんとするに當り東京港の修築は最も緊要なる事業と稱すべきなり。

修 築 誌

(東京市港湾部技術課長 森田三郎氏)



築港の端緒一度開かるゝや、過去幾多の不利を作ふ横濱經由の内貿中東京に集注する貨物は逐次芝浦に増加し、昭和六年度に於ける本港の本船荷役貨物は380萬噸を示せり、斯くの如く計畫豫想量を忽ち突破し、到底此儘放任し難き情勢を示すに至れり。

尙同年度に於ける東京市の貨物集散量は1,480萬噸、入貨は其の8割1,170萬噸にして、内5割6分650萬噸は水運に依る、之に由つて觀るも港灣施設の如何に市民經濟に密接なるやを窺ひ得可し。

加ふるに該本船荷役貨物以外に横濱解取りに依り、東京港に移送せられる貨物は年額300萬噸以上にして、是等の貨物は徒に経費と時間とを空費し、且貨物損傷も少しとせず。依つて昭和五年十二月、本市々會は豫算3,300萬圓、工期十ヶ年港内荷役量750萬噸の東京港修築工事を議決し、昭和六年十一月之が工事に着手し日下繼續施工中なるも、一部芝区竹芝町繫船棧橋、水面積45,000坪を有する解溜及び芝浦、深川五號埋立地先の鐵筋混擬土造物揚場等の諸工事は既に竣工を見るに至れり。

尙工事を急きつゝあるものに、浚渫、埋立各種護岸芝浦繫船岸壁上屋、埋立地連絡橋並びに月島勝闘の可動橋あり、更に客船占用施設の臨港地域進出も近く、今後接岸施設の完備と埋立地の開發等、相俟つて現況を益々躍進せしむるものとす。

3. 東京港修築工事計畫

本計畫に於ては荷港内役能力を一ヶ年750萬噸とし6000噸級以下の船舶80餘隻を同時に繫泊せしむることを得、これに對して本船溜の浚渫、繫船岸壁、繫船棧橋及物揚場の築設、解船溜及筏溜の設置並に道路の築造、橋梁の架設、鐵道の敷設、倉庫、上屋の建築等水陸連絡の便を計らんとするものにして計畫の大要を示せば次の如し。

1. 航路

航路は第5砲臺及第2砲臺間なる港口より南方水深25尺の等深線に達する間延長3,300間にして、幅員80間を保ちて干潮面以下25尺の水深に浚渫し、以て6,000噸級以内の船舶の出入に支障なからしめ、更に港内主要航路として月島南端より第2砲臺に達するの間延長1,750間幅員80間は水深22尺乃至25尺に浚渫するものとす。

2. 假防波堤

假防波堤は第3第6及第2砲臺を連絡し其の延長360間にして既定の第3砲臺及深川地先埋立地を連絡する假防波堤と相俟て港内水面積250萬坪を包擁し靜穏なる内港を作り以て東風及東南風により激浪の港内に及ぼす影響を阻止せしむるものとす。

3. 防砂堤

航路に沿ひてその兩側に防砂堤延長2,890間を築造して外海25尺の等深線に達するまで航路の土砂埋没を防ぐものとす。

4. 波除堤

第八號埋立地の東南面に波除堤 281間を設け面積45,000坪を包擁する静穩なる水面を作り船舶に對し安全なる碇繫場たらしむ。

5. 繫船岸壁

第四號埋立地西南面に延長240間の突堤を築造し其の兩側に甲種繫船岸壁（水深25尺岸壁）及乙種繫船岸壁（水深22尺岸壁）を築造し、同岸壁に接して上屋を建設し専ら一般貨物の收容に便せしめ、又第4號埋立地東南面に延長2,400間の甲種繫船岸壁を築造し、更に之に連續して延長240間の乙種繫船岸壁を築造して専ら石炭其の他無包裝貨物の移出入に備へ、一方深川區地先第五號埋立地西南面には延長240間の突堤を築造し兩側には乙種岸壁（水深22尺岸壁）を築造し且つ上屋を建設し以て船舶の接岸荷役に便せしむ。繫船岸壁は何れも鐵筋混泥土潜函構造とし2,000噸乃至6,000噸級船舶18隻の同時繫船を可能ならしむるものとす。

6. 構橋

第一號埋立地前面に延長 170間の鐵筋混泥土構橋を築造しその前面を水深 22 尺に保ち2,000噸乃至3,000噸級船舶3隻の同時繫留に供す。

7. 物揚場護岸

第八號埋立地東南面に於ける船舶溜の沿岸延長426間及第五號埋立地西南面延長383間には甲種物揚場護岸を築造してその水深9尺を保たしめ又第十號埋立地西面筏溜の沿岸延長1,038間は水深7尺を有する乙種物揚場護岸を築造するものとす。

8. 埋立地護岸 埋立地護岸は鐵筋混泥土矢板構造を主とし第十號第十一號十二及第號埋立地の外海に面する部分は特に堅牢なる構造となすものとす。

9. 本船繫泊所

港内總水面積約 256萬坪の内芝浦東面より月島東南面一帯の面積90萬坪を浚渫して本船繫泊所となし其の内40萬坪は水深25尺を保ちて4,000噸乃至6,000噸級船舶の繫泊所に備へ、58萬坪を水深22尺となし2,000噸乃至3000噸級船舶の繫泊所とし計46隻の船舶を同時碇繫に可能ならしむ。

10. 舶船溜

船舶溜は第八號埋立地の東南面に水面積45,000坪を劃し、水深9尺を保たしめて之れに充てその沿岸を物揚場となす。

11. 筏溜

第十號埋立地西北面に水面積162,000坪を包擁する筏溜を設け水深7尺を保たしめその沿岸を物揚場として木材の集散及荷役場となす。

12. 埋立地間運河

各埋立地間に縦横に運河を設け幅員30間乃至60間となし水深干潮面以下 7 尺に浚渫し船舶航行の利便に供せんとす。

13. 浚渫及埋立

本計畫による浚渫總面積は177萬坪その土量280萬立坪にして埋立地は面積926,000坪、その土量250萬立坪とす。

14. 上屋及倉庫

上屋は繫船岸壁に沿ひ13,500坪を建設し一ヶ年間の岸壁荷役豫想貨物80萬噸を收容するに支障

ながらしめ、岸壁法線より 100間の地域は之を臨港地域となし専ら上屋其の他の海陸運輸連絡用地に充當するものとす。

15. 埋立地上の道路及橋梁

各埋立地上の道路は周囲の交通状態を考察して幅員10間乃至20間を有する主要路線其面積約・9 1,000坪を撰定し別紙計画平面圖に示せるが如く之を配置せり。而して隅田川口改良工事に屬する埋立地の計畫道路の一部なる約 79,000坪と共に計27萬坪を専ら砂利道となし、これに附隨する側溝を設け、又芝浦府市兩埋立地の連絡橋を始とし木橋19橋及鐵橋 1橋を架設して車馬の交道に支障なからしむるものとす。

16. 隅田川可動橋

隅田川を横断して月島及築地を連絡する可動橋を架設し、以て月島埠頭と市の中心地區とを連結する交通路たらしむるものにして、其橋長135間幅員12間を3徑間に分ち中央徑間を可動式とし船舶の航行を自由ならしむ。

17. 鐵道

水陸連絡設備上必要なる臨港鐵道は越中島驛及汐留驛を起點として各繫船岸壁に引込線を敷設し貨物の輸送に便せしめ、鐵道橋は何れもその中央徑間を可動橋とし船舶の運河交通を容易ならしむるものとす

18. 其他

以上の外挂燈浮標及港燈等を設置して航路の標識に便にし繫船浮標を設置して本船の碇繫を安全容易ならしめ、陸上には沿岸に電燈を設置して構内の照明に供し、水道を敷設して船舶給水に便せしむるものとす。

4. 東京港修築費支辨方法

本計畫に依る工費は3,300萬圓にして其の支辨方法は全額公債によるものとし之が償還方法は自昭和6年度至同38年度の埋立地賣却代及自昭和9年度至同43年度の港灣設備收入に依るものとす。而して昭和43年度に於て公債全額の償還を完了し剩餘金4,652,000餘圓を得るのみならず翌44年度以降は年々601,400圓の港灣維持管理費を支辨する外 1,804,000餘圓宛の収益を擧ぐるを得べく、剩へ未賣却埋立地56萬餘坪を残すを以て、如上の支辨方法に對し相當の餘裕を存し尙將來の擴張計畫に對しても充分なる資源を有するものなり。其の内譯次の如し。

1. 埋立地賣却代

賣却埋立地は既成隅田川口改良工事に基く埋立地にして面積 1,098,000餘坪の内其の約4割を道路敷、鐵道敷、臨港地域、其他の公共用地及市有地として留保し、其の殘餘約6割に當る645,000餘坪の中266,000餘坪の賣却代22,688,000餘圓を以て隅田川口改良工事に關する公債償還に充て、之れが殘餘中315,000餘坪の賣却代2,679萬餘圓を以て本計畫に關する公債償還の一部に充つるものとす。

2. 港灣設備に依る收入

港灣設備に依る收入は岸壁及棧橋繫船料、繫船浮標使用料、上屋使用料筏溜使用料、倉庫敷地使用料及荒荷置場其他土地使用料等にして、之等は全工事の完成前と雖も竣工部分毎に順次之を利用するこゝし、港灣設備に依る收入の約2割5分の維持監理費を支辨し、殘餘約7割5分を前記埋立地賣却代と共に本修築費公債償還に充當せんとするものなり、而して昭和30年度に於て其收入最大年額240萬5千餘圓に達し内601,000餘圓を港灣維持管理費とし180萬4千餘圓を公

債償還に充て昭和43年度に於て該償還を完了せんとするものなり。

繼續東京港修築費豫算

科 目				摘要
項	種 目	附 記	豫算額	
			33,00,0000圓	
1. 事務費			1,145,000	
2. 工事費			30,855,000	
	1. 淀 淀 埋 立 費	淀 淀 5,19,992 埋 立 2,40,498	2,800,000立坪(1圓856) 2,500,000立坪(圓963)	
	2. 防 波 堤 並 防 砂 堤 費	假 防 波 堤 .42,000 防 砂 堤 1,63,2,850 波 除 堤 177, 15	360間(9.0圓) 1,921間(850圓) 274間75(647圓185)	
	3. 岸 壁 並 桟 橋 費	甲 種 整 船 岸 壁 1,519,610 乙 種 同 2,812,650 甲 種 物 揚 場 554,473 乙 種 同 602,040 甲 種 護 岸 1, 91,328 乙 種 同 1,073,600 繫 船 桟 橋 .23,327	524間(2,00圓) 1,103間(2,550圓) 809間(685圓380) 1,038間(580圓) 2,43,間1.5, 530圓919) 4,880間(220圓) 17 間(2,4,0圓1.4)	
	4. 設 備 費	繫 船 浮 標 297,200 雜 設 備 280,000	34箇(8,741圓176)	
	5. 道路橋梁並鐵道費	道 路 1,598,800 道 路 橋 1,745,185 可 動 橋 3,000,000 鐵 道 427,500 鐵 道 橋 602,000	270,000面坪(7圓0.2 20橋、黎明橋ハ 240,000 圓宛二ヶ年繼續トス 9哩5 4橋	
	6. 上 屋 費		2,353,4 0	1,500面坪(17圓32.5)
	7. 船舶並機械器具費	淀 淀 埋 立 用 機 械 船 舶 550,000	ポンプ船一隻300,000圓 リレーポンプ 1式140,000圓 十坪積土運船5隻11,000圓	
	8. 雜 工 事 費	曳 船 用 船 舶 55,000 雜 機 器 具 船 舶 160,000 船 舶 機 器 修 繕 350,000 工 場 設 備 100,000 測 量 調 査 80, 00 雜 工 事 費 110, 58		
	9. 補 償 費		641,900	
	10. 土 地 買 收 費		1,8,984	

繼續東京港修築費支出額年度割表(十ヶ年繼續)

一、金參千參百萬圓也	金壹百萬圓	同 十年度支出額
內 譯	金四百萬圓	同十一年度支出額
金貳百萬圓 昭和五。六年度支出額	金四百萬圓	同十二年度支出額
金參百萬圓 同 七年度支出額	金四百萬圓	同十三年度支出額
金四百萬圓 同 八年度支出額	金四百萬圓	同十四年度支出額
金四百萬圓 同 九年度支出額	金參百萬圓	同十五年度支出額